

知床五湖の利用のあり方協議会（第29回）

<議事録>

1) 日時：平成25年4月15日（月） 16:00～18:00

2) 場所：知床世界遺産センター レクチャールーム

3) 議題：

- (1) 指定認定機関の平成24年度収支報告
- (2) 平成26年度からの運用設定基本方針について
- (3) 登録引率者審査部会会計規則の改正について
- (4) その他

4) 資料：

- 資料1 平成24年度指定認定機関収支報告
- 資料2-1 平成26年度にむけた利用調整地区制度の見直し等スケジュール（案）
- 資料2-2 知床五湖利用調整地区利用適正化計画進捗状況追記版
- 資料2-3 平成26年度からの知床五湖利用調整地区制度の運用設定にかかる基本方針（案）
- 資料3 登録引率者審査部会会計規則改正案
- 資料4 クマレク見て得 キャンペーン企画について

参考資料1-1 第16回知床五湖登録引率者審査部会議事メモ

参考資料1-2 平成25年度ヒグマ活動期運用改定実験実施要綱（案）

参考資料2 知床五湖ヒグマ等事故リスク対応マニュアル目次

参考資料3-1 知床五湖登録引率者の新規養成希望者募集要領

参考資料3-2 知床五湖登録引率者新規養成カリキュラム一覧

参考資料3-3 知床五湖登録引率者新規養成カリキュラム日程

参考資料4-1 第27回知床五湖の利用のあり方協議会議事録

参考資料4-2 第28回知床五湖の利用のあり方協議会議事録

5) 議事概要

(1) 指定認定機関の平成 24 年度収支報告について

知床財団：資料に沿って説明

[質疑応答]

○：23 年度の黒字は 160 万円程度か。

知床財団：23 年度は 160 万円ぐらい黒字だったが、それを 24 年若干はき出した形となった。

○：直接経費は半減しているがなぜか。

知床財団：昨年度の直接経費は初年度と言うこともあり、ディスプレイを作成したり、パソコンリース代などの初期費用が掛かったが、今年度は抑えることができた。ただし、人件費はある程度掛かり、変化はなかった。人件費の中には、今年実施した「見て得くキャンペーン」の企画やお客さまへの説明などの業務の一部が含まれている。開園期間、人を雇用している訳なので、五湖の制度を利用して、知床全体の価値が上がる方向で人員を活用していきたい。

○：8 月の総人工数 215 となっているが、人件費が変わらないのは、雇用形態などが相当数違っているためか。

知床財団：仰るとおり雇用形態が違うからである。植生保護期の 8 月、9 月あたりはお客さんも多くなるため、レクチャー頻度を考慮すると、5 名～6 名の体制を組む必要があるが、それ以外の期間はそれほどの人数は不要のため、繁忙期間のみ期間雇用が増える。

○：メインとなる人は通年雇用か。

知床財団：通年雇用にしたいと思っている。

○：今は違うのか。

知床財団：現在は通年雇用が 4 名程度、あとは期間雇用としている。8 月、9 月の人工数との違いは、この時期に集中して雇用せざるを得ないことから生じている。

観光協会：基本的に観光協会としては、お客様から頂くお金はなるべく安い方が良いと思っている。

○：8 月、9 月の人件費単価、7,790 円と 8,745 円というのは、臨時（期間雇用）の方の賃金が安いから、他の月と比べて違いが出ているのか。

知床財団：単純に月ごとの人件費を 1 日の単価で割った結果である。

(2) 平成 26 年度からの運用設定基本方針について

環境省（野川）：資料に沿って説明

[質疑応答]

○：3月22日の遺産地域連絡協議会で、管理計画案により、五湖の駐車場は現状程度に留めるとあるが、こちらを優先しないで欲しい。また、幌別の駐車場については、マイカー適正化利用計画の中で検討することになっているが、五湖のあり方協議会の中で取り扱うことになるのか。

環境省（野川）：管理計画は、4月1日に改定している。マイカー規制との関連は、五湖の駐車場のキャパシティーが変わると、カムイワッカに向かう人の動向も変わるので、カムイワッカ部会と調整しながら行うことになる。五湖の駐車場のキャパシティーが上がることは、カムワッカの渋滞対策になるので損はないと考えている。

観光協会：やはり渋滞を解消をさせたい。そのため、五湖の駐車場整備がどうなるのか興味があるが、できれば町道入り口から全体的な整備ができれば一番良い。町、国の施設が交錯している状況なので時間が掛かると思うが。

環境省（野川）：町道も含めて整備して欲しいとのことか。

観光協会：それがどうかなるのか知りたい。段差の問題もある。町道入り口から五湖までは何メートルあるのか。設計の際に全部切り取る事になるのか。

環境省（野川）：町道入り口から300m以上あります。

観光協会：工事については調整があるのか。

環境省（野川）：利用調整地区制度の導入による利用状況の変化を踏まえ拡張工事を行うとされており、この協議会の議論した結果を反映させてできる事になっているが、段差をなくして2倍3倍にしろという話にはなっていない。1列2列増えれば良いと、皆さんと意思統一ができていますと思いますが如何か。

○：もう少し拡張して欲しいと、ずっと言っている。まだ案段階のはず。植生調査もおこなっている途中。

環境省（野川）：植生調査はおこなっており、山側に行きすぎると湿原地帯に入ってしまうため、今の段差部分を取り崩し、その部分土を盛る程度の中になると思う。

○：設計案が出てこないと言論できない。素案が出てきて具体的に考えるのであって、現段階で決まった訳ではないと思うが。

環境省（野川）：余り無理なことを言うと、拡張はあきらめることになってしまう。ある程度の線は皆さんの中にあっても良いのではと思う。

○：測量は10月実施と書いてるが、図面が出てくれば判ってくる。

環境省（野川）：測量してどのくらいの規模にするのか、何台増やすとどうなるかについては、カムイワッカ部会で愛甲先生に話をしてもらった。拡張により

何台増やすと、渋滞はどうなるかのシミュレーションできる。ただ、あの場所は拡張しても2倍にはならないと思う。

○：予想としてどのくらい増台できるのか。

環境省(野川)：30台は可能かと思う。それを200台にしろとは到底ならない。

○：7台程度かと思っていたが、30台いけるのなら…。

環境省(野川)：後は図面を引いてみて、枠の取り方次第。この台数なら、皆さんの考えとそんなに差がないのではと思う。これを2倍、3倍にと言うのであれば厳しくなる。

斜里町：この工事は環境省が行うのか。事業執行、土地の所有などの関係もあるが工事に当たっては、変更を行った上で行うのか、それともそのままか。

環境省(野川)：事業執行でいうと、町から国に変わる。ただし、町道まで全てという話にはならない。

斜里町：勾配のすりあわせは行うのか。

環境省(野川)：勾配のすりあわせは行うが、300mの勾配をつける訳にはいかない。測量で調整していく。

斜里町：(環境省工事部分以外のすりあわせは)町がやるのか。

環境省(野川)：環境省では手が出せない。

斜里町：通常なら、継ぎ合わせの部分は環境省が、それ以外の町道は町が行うのが一般的だが、そこを環境省で行えないのか？

環境省(野川)：取り合いの設定程度か。

斜里町：測量設計・入札後に諸条件の確認・調整を行って行く中で、町と協議していただけるともの考えている。十分相談させていただきたい。

○：フィールドハウス(以下、FH)以外のレクチャーについて、自然センターから出るバスのできるのが良いと思う。お客さんの多い時は、FHで対応しきれないのが現状だと思うので、分散して行うのはお客さんにとっても良い。また、1シーズン何度も来る人は、ガイド不要の自由利用も考えてもいいのではないか。

環境省(野川)：現段階ではFHのレクチャーを0にするということにはならない。段階的に目指して行くこともあり得る。例えば第1段階として、FHのレクチャープラスアルファとして多くの人にレクチャーを見てもらう機会を作る。第2段階としてそれを受けた人は、FHのレクチャーの一部を受けなくても良いなど。映像やマニュアルを使って講習を受け、この講習を受けた人が他の場所で案内ができるという形を目指せばと思うので、どういう形が可能か検討したい。

○：時間が掛かっても良い。数カ所でレクチャーが行えればもっとスムーズになる。お客さんが集中する植生保護期に、レクチャーを分散することにより、スタッフを増やさずに済むのではないと思う。少しずつだと思うが。

○：マイカー規制時に行ったら最適だと思う。

○：植生保護期のレクチャーの効果は大きいので、色々なところで受けてもらうのは良いことだ。

知床財団：FHが手が回らないので、他でやると言う訳ではなく、10分も待ったお客さんはいないはず。知床五湖はレクチャーを受けるということが有名になった。そのような場所が増える方向性は良いことなので検討したい。一方でFHのレクチャーは最後の情報提供の場であり、これからクマのいるところに入って行くのだという意識を高めるために有効だと思う。役割分担も含め整理する必要があると思う。知床に来る人はレクチャーを受けるのだという方向性を目指せばよい。

○：五湖FHの運営の効率化と、FH以外でのヒグマ対応の普及という2つの考え方があり。広げるにしても整理する必要がある。映像は将来地元で見られるようなものを作るのか。

環境省（野川）：遺産センター改修に合わせ映像を作成予定。著作権の入手も含めて発注したい。作成したコンテンツや映像を使って研修を行い、皆さんも一緒になって、知床に来る人に伝えられる形を目指したい。

○：先ほどの意見は、知床に来る人は五湖を利用する人だけではなく、より多くの人に事前レクチャーを受けて貰ったほうが良いとの意見だと思う。認定については、FHで行うと言うことで良いのか。

環境省（野川）：そのとおり。

○：素材集めは比較的早めに行う必要があるが、FH以外でのレクチャーを何のために広げるのかの議論はきっちりしていくべき。

○：認定手数料は下げない方向か？

環境省（野川）：はい。

○：収支決算報告書の報告について、一般的な企業では一般管理費は利益的なものになると思うが、知床財団はどういう立場で計上しているのか。もし、これが利益なら160万円の黒字になり、公益財団法人にとっていいものかどうか確認したい。

知床財団：利益とは考えていない。一般管理費というのは決算上の経費であり、完全に公開されており、いわゆる共通経費というもので処理されている。皆さんに還元できるものは人件費であり、雇った人間がレクチャーなど知床にプラ

スとなるよう働く事で還元している。

○：知床財団の経費の一部を一般管理費で計上しているのか。

知床財団：そうです。

環境省（野川）：利用適正化計画の運用改定の基本方針は、合意を得たと言うことで、これを元に運用改定に進んでいく。運用改定には、利用適正化計画の書き換えが伴う。今まで作った利用適正化計画に、今決まった基本方針を入れながら改定作業をしていくということを次回の協議会で考えている。

観光協会：計画の改定は3月になっているが、パブコメも計画改定も早めることができるのか。

環境省（野川）：可能。

観光協会：エージェントへの情報提供もあるので、最低限の計画を11月半ばにまでに出してもらえたらありがたい。

（3）登録引率者審査部会会計規則の改正について

環境省（野川）：資料に沿って説明

[質疑応答]

環境省（中島）：会計の規則改定なので、ここで承認してもらう必要があるので遠慮無く聞いて欲しい。

環境省（野川）：現在受験料として毎年頂いているので、資金的には3年程度は運用できると思われる。将来的には受講料の改定もあり得るが、当面はこの額で大丈夫である。

○：会計は誰がやるのか。

環境省（野川）：現在の会計は知床財団が担当している。

○：財団会計担当からは決算の話は聞いたことがないのだが。

○：知床財団でお願いします。審査部会の規定に指定認定機関である知床財団が会計を行うと書いてある。

知床財団：我々が会計の支出及び決算を行うということか。

環境省（野川）：そのとおり。これまでは入るのみだったと思う。

○：参考資料3の3番目は、試験の際の試験料か、それとも受験料か。

環境省（野川）：受験料として言葉を合わせたい。研修費用も受験料に変える。

○：（先ほどの会計の件だが）会計は指定認定機関知床財団が担当すると書いてある。（2011年7月8日第24会あり方協議会において）

○：会計監査は誰になるのか。

環境省（野川）：現在は梅澤さんをお願いしている。

環境省（中島）：承認ということによろしいでしょうか。

一同：承認。

（3）その他

○：指定認定機関は、今年度は知床財団ということか。

環境省（野川）：そのとおり。指定認定機関は、当該機関が辞退するまで。

○：手数料の50円の釣り銭は大変だと思うので、200円にならないのか。

○：釣り銭の両替にも銀行でお金を取られるのではないのか。

○：そのとおりです。

<クマレク見て得キャンペーンについて>

知床財団：年間4万から5万人の認定者に、認定証を使って地域で得をしてもらおうというキャンペーン。前回の協議会で斜里町、羅臼町に声を掛けたが、世界遺産の会議の中で標津町にも声をかけたところ、3店舗ほど希望してもらった。現在、一旦締め切り最終確認を行っており、6月から動き始めたいと考えている。各協力店舗でキャンペーンに参加し1日何人来たか、どんな効果があったかを報告したい。来年度以降も五湖の利用調整制度を活用してきたいと思うので協力をお願いしたい。

○：観光圏とリンクした方が良いのでは。標津町は公園区域なのか。

知床財団：標津町に声を掛けたのは、ヒグマ管理方針関及び世界遺産の会議でヒグマ対策を一緒にやっていくことが管理方針で出ていたことから、標津町に話がいったものであり、観光圏のことは考えていなかった。

観光協会：観光協会としては、斜里、羅臼、標津、清里町の3町でというものがあり、知床観光圏という名前になっている。今年は静かにやってもらうようにし、来年度以降も行うのであれば、清里町にもぜひ声を掛けてほしい。

知床財団：知床五湖利用のあり方協議会にはウェルカム部会があり、観光協会と指定認定機関と一緒に活動しているので、今回は清里町に話をさせていただく。

○：チラシはカウンターで配るのか。

知床財団：カウンターと、何部かは協賛店舗に置いてもらう。知床五湖に来ていただいた方にばらまきたいので、五湖では渡したい。

○：長続きするのなら、何かのマークを作成しそれがあるところは使えるというようにしたら良い。ところでウトロの協賛店は少ないが、許力的では無いのか？

○：うちは協力していない。基本的にお客様の数が多く、仮に協賛しても入れないということになれば、かえって迷惑を掛けることになってしまう。認定書の

発行時期はお客様の多い時期であり、認定書持っている人を優先するわけには行かないので、難しいと判断した。

環境省（中島）：同じような事例として、九州での地域振興で、地元にお金を落とさせるシステムがあった。認定書ではないが、カードを持って歩くと得点があるものだった。

知床財団：それぞれの店のやり方で、それぞれお客さんにバックしていけば良いのではと思う。指定認定機関としていろいろ関わる中で、昨年度は町民への還元キャンペーン、今回は利用者に還元し、何が効果的なのかを試していく。ここで試したものが広がっていけば良いので、調整不足（不備）のところは改善したい。

○：なぜ標津が入ったのかを、誰でも説明できるようにしてほしい。羅臼町と斜里町だけで良いと思う。これからどんどん増える時のことを考え、最初からきっちりしてほしい。また、チラシは知床財団が負担するのか。

知床財団：このキャンペーンは、主催が知床五湖の利用のあり方協議会とし、裏面に事務局名（知床財団）が載せてある。

○：ここに記載してあることは、個人で出すものではなく、あり方協議会というある程度公のものが出るので、信用性があることから、記載内容はきっちり確認してほしい。もし、内容に間違いがあれば困るのではないかな。環境省で内容を確認し、きちっとさせないと問題になるのではないかな。

知床財団：文章を調整したものを各店舗のチェックを受けて載せる。その店舗が、チラシとおりに行っているかを調べることは困難であるので、何かあれば教えてほしい。

○：ウェルカム部会では誰が文案を考えたのか。最後にあり方協議会の名前や環境省の名前を使うということにはならない。

○：ウェルカム部会は指定認定機関と観光協会が事務局をやっている。

○：だったら、観光協会から観光圏のことについて出てくるのはどうなのか。部会として機能するようにやって欲しい。

知床財団：前回の協議会で事務局は財団が行う事を確認しており、財団で進めて、この協議会で図っているものである。この場で、標津町さんはやめて欲しいということになれば、財団の先走りなので、お詫びし協議会で外すことになった事を話しに行く。

○：前回の話では標津町は入っていなかったのか。

知床財団：前回の協議会から今回の協議会の中に、みなさんに図ることができなかった。この場でやめて欲しいとのことであればやめることができる。標津や

清里も含めるといふ雰囲気であれば、そのように進めて行く。

○：個人的な感想ではあるが、知床観光圏でやるのでなければ、とりあえず標津町は除きウトロ、羅臼でやるのが良いのではないか。

進行：その辺は観光協会と知床財団で個別に話をして欲しい。

<海岸ゴミ撤去について>

ウトロ地域協議会（松本）：ボランティアで公園内の海岸のゴミ拾いを行っている。人と車を使っての作業であるが、産廃ゴミやロープ、網などがあり、人力では撤去できないものがたくさんある。予算を付けて重機での撤去ができないか。ゴミは産廃となると思うが、その予算化なども含めて皆さんの意見を聞きたい。遺産地域内のゴミのこと。ルシャ地区のこと。

○：毎年5月に知床岬にゴミ拾いに行っているが、あれは船もボランティアで出してもらっており、ゴミはトラックで町の処分場に搬入している。

ウトロ地域協議会（松本）：そのボランティア清掃で出たゴミは、大型の漁具とかロープは元々拾ってないので出ないはずだ。

○：（大型の漁具やロープ等は）現地においたままであり、缶とかペットボトルとかの小物を集めて、斜里町の処分場で受け入れている。町で受け入れない物は集めていない。先ほどの意見は、大物のゴミを含めた対応だと思う。

ウトロ地域協議会（松本）：ルシャにはたくさんのロープなどがある。撤去できないか。

○：知床岬やルシャ地区などは何カ所かで、たまたま予算をつけて回収したことがある。確かそのとき調査区を設けてゴミを除去した後、どのくらいの量が漂着するのかをモニタリングしたと聞いているがどうなのか。

○：知床岬の調査区は写真撮影をしてもらっており、それほど増えていないと思うが、まだ残っているゴミがたくさんある。それはルシャも同じで山積みになっている。それを撤去するとなると数千万単位の費用が掛かってしまうのではないか。国立公園内でいうと、利尻礼文サロベツ国立公園の豊富町の海岸で、1千万円掛けてゴミをさらった事がある。できる限界がある。

○：船から見ると、汚らしく見えるという話か。

ウトロ地域協議会（松本）：ルシャを意識して言っている。ルシャは遺産登録前に、町がダンプとショベルカーで撤去した事がある。

○：（処理には）何百万と掛かる。ごみの処理まで考えると、漁具などは苦小牧まで持って行かなければならない。

ウトロ地域協議会（松本）：腐らないからどんどんたまっていく。もっと積極的

に取り組んで行かないといけない。

○：公園外も同様だ。

○：腐らないからいつまでの残ってしまうので、その対策が必要だ。

○：観光船に乗せて、ルシャ沖からヒグマウォッチングとか言って、クマを見せているが、その手前にあるのはゴミだらけの海岸であり、これが本当に世界遺産かって言われてしまうのではと思う。

○：何とか積極的に取り組んで欲しい。

○：課題は大きい。

環境省：とても大事な話。

【閉会】